

審査結果概要書

平成 23 年 11 月 18 日

審査機関名 株式会社 J A C O C D M

1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	食品工場におけるボイラーの更新による CO2 削減事業 (A 重油→都市ガス)
排出削減事業者名	株式会社 両口屋是清
排出削減共同実施事業者名	株式会社ウェイトボックス (その他関連事業者名：－)
事業実施場所	株式会社 両口屋是清 小牧工場 愛知県小牧市大字間々浦通り 18
事業の概要	本事業では、食品工業におけるボイラー設備を高効率な設備に更新し、A 重油から低炭素燃料の都市ガスへ、エネルギー転換することによって、二酸化炭素削減を図るものである。
排出削減量の計画	2009 年度： 27 t-CO2/年 2010 年度： 321 t-CO2/年 2011 年度： 321 t-CO2/年 2012 年度： 321 t-CO2/年 (事業実施期間合計 990 t-CO2)
国内クレジット 認証期間	開始日 2010 年 3 月 1 日 終了予定日 2013 年 3 月 31 日
排出削減方法論	方法論番号 001 ボイラーの更新

2. 審査結果

本事業は、排出削減事業の要件に適合している。

3. 実施した審査手続きの概要

審査手続きにより、以下の排出削減事業の認証の要件の妥当性を確認している。

要件	審査手続き
日本国内で実施されること	<p>事業計画が日本国内で実施されていることを、事業サイト訪問により確認した。</p> <p>排出削減事業実施場所：株式会社 両口屋是清 小牧工場 愛知県小牧市大字間々浦通り 18</p> <p>事業サイトの視察日付：2011年 10月 27日</p>
追加性を有すること	<p>1) 本事業は、法的義務等の遵守のために計画されたものではなく、省エネ及びCO₂排出量の削減を目的として実施されていることを、削減事業実施者である株式会社両口屋是清、担当者への質問等により確認した。</p> <p>2) 本事業では、食品工業におけるボイラー設備（2台）を高効率な設備に更新し、加えてA重油から低炭素燃料の都市ガスへエネルギー転換することによって、二酸化炭素削減を図るものである。更新前のボイラーは1963年5月及び1987年6月に設置されていることを確認した。1台は法定耐用年数15年の2倍の期間を超えているものの、小牧市による「ボイラー検査証」及び製造メーカーによる「定期性能検査受整備報告書」により引き続き使用可能であったことを確認した。</p> <p>3) 排出削減事業の投資回収年数については、根拠資料、質問および検算により5.4年であることを、根拠データ及び関連資料と突合することにより正確性を確認した。</p> <p>4) 排出削減事業者は、従来より工場他の省エネルギー及びCO₂削減に取り組んでいる。</p> <p>本事業では、ボイラーを更新することにより、省エネルギー及びCO₂排出削減を目標としていることを、現地視察、質問等により確認した。</p> <p>以上、本排出削減事業は、追加性を有すると判断できる。</p>
自主行動計画に参加していない者により行われること	<p>自主行動計画への参加の有無について、各事業サイト訪問時のヒアリングにより、事業者が業界団体に所属しておらず、自主行動計画に参加していない事を確認した。</p>

<p>排出削減方法論に基づいて実施されること</p>	<p>1) 方法論 001「ボイラーの更新」に基づき適用条件を満たしていることを確認した。</p> <p>適用条件1については、既存ボイラーの仕様書の確認、更新後ボイラーの現地視察、仕様書の確認等によって、高効率のボイラーを導入していることを確認した。</p> <p>適用条件2については、更新前のボイラーが継続して使用可能であったことを、設置年度と法定耐用年数及び小牧市の「ボイラー検査証」及びボイラーメーカーの「定期性能検査受整備報告書」により確認した。</p> <p>適用条件3については、事業実施後のボイラーで生産した蒸気を自家消費しているため、適用条件3を満たしている。</p> <p>2) その他、バウンダリの設定、ベースラインの設定、リーケージの特定、排出削減量の計算方法、モニタリングの方法等が適切である事を、事業者への質問と関連資料の閲覧により確認した。</p> <p>3) 本排出削減事業によるリーケージについては、該当する事項が存在しないことを確認した。</p>
----------------------------	--

4. 特記事項

投資回収年数については純投資額から補助金を差し引いた額をもとに算出していることを確認した。